

ひめまつ



創立75周年・本誌30号記念

30



ひめまつ 第三十号 目次

表紙……薄久保友司 題字……石川木魚 写真……伊東礼一

〔巻頭言〕父兄との対話を求めて……校長 須賀 淳……………1
評議会をより活発にしよう(新生徒会長あいさつ)……………篠崎 紀夫……………7
体育祭に小文化祭を併行(二年間の活動を省みて)……………松田 和也……………6

校内読書感想文コンクール入賞作品

「女の一生」……岩井秀子 老人と海……福本恵子……………9
吾輩は猫である……増淵美緒 「沈黙」……神山美味子……………
老人と海……泉水紀子 「ころろ」……新井章子……………
舞姫……小川純子 ひめゆりの塔……安田千恵子……………
「沈黙」……小勝はるみ……………

▽委員会・クラブこの一年

佳作(大東文化大学全国高校生論文)……………21
私を変えたスポーツ……加藤 敏江……………36
◇校内弁論大会優勝論旨 看護婦に青春のすべてを……河野明子……………40
雑草になろう……佐藤 さち子……………あなたも老いる……中村悦子……………42
インターアクト・沖繩研修の成果ほか……………

特集Ⅰ 誌上対話・親が子に望むこと・子が親に望むこと

〔父兄〕浜口 咲子・久米田 範丸・安野 三男・岡 祐祥・北本 忠吉……………46
〔在校生〕浜口 尚美・久米田 真理子・篠崎 紀夫……………
特集Ⅱ 若者はかく訴える……国井幸子・井上悦子・木下君江……………53
五十畑弘子・中沢登美子・中本 静子・中島 重幸・清水 真弓・鳥山 妙子……………

特集Ⅲ

先輩から在校生に望むこと……………61
中西 恵・岡本栄子・新嘉喜ちさ子・福田イエ子・若井 克子・荒木美智代・神戸 和子……………

詩

清水 チイ・恩田 和江・阿部田しづ江・坂本 江也……………69
戸井田洋子・小菅せい子・印南早苗・猪瀬久美子外……………
故波多野昇先生を悼む……………78

遺稿Ⅱ「女性崇拜の由つて来るもの」波多野昇

甲 辞……………須賀 淳……………甲詩「悲しみは潮のごとくに手塚 武……………
追悼文……………二年十二組……………悼波多野先生……………河住 玄……………
III 随筆コーナーIII……………

雨情と私

手塚 武 情熱は燃えつつける……渡辺欣子 函館のいち日……稲葉 実……………
ギターを生涯の伴侶として……奈須野康夫 使命感に生きる……宇梶芳蔵 優しく親切な先生方……………
増田孝子 バスケットを通しての心……藤橋 渡……………

◇短歌

◇俳句……………112
学園ニュース・トピック……………97
全国デザインコンクール一位・読書感想文・入賞者……………
校内小文化祭・体育祭盛大に・生徒会長選挙・PTA研……………
修旅行・税に関する作文入賞外……………研……………

◇各地学友会の活動

鹿沼・日光・今市・石橋・古河・田原・栃木・第七支部・第四十二支部・第二十四支部外……………106
クラスの談話室……………
また楽しからずや・わしらのホームルーム……………116
修学旅行・遠足・裏磐梯キャンプ……………125
室生寺・高野山・小豆島……………鈴木 清美……………記憶の中の大洗……………恩田 科江……………
お土産は有難いお言葉……………久米田真理子……………野鳥の声花と友情……………遠藤方理子……………
□「共通の広場で語ろう」……………江老沼和子・二年体育委員・川俣みどり……………
酒井光子・北本祐子・佐藤さち子……………

家政科技術検定について

昭和五十年年度就職決定状況……………139
昭和五十年年度学校行事……………144
▽編集後記……………奥付▽……………145

検定合格一覧

昭和五十年年度生徒会役員一覧……………142
職員住所録……………138



さあ・やるぞ！
勢揃いした生徒会役員



選手宣誓……校内球技大会



がんばれ、がんばれ！
―クラス対抗バレーボール―

楽しい修学旅行
飛鳥寺で静かに
お話をきく



キャンプファイヤー
裏磐梯にて



リズムカルに！
流れるように！
||日光スケート教室||

校 歌



宇都宮短期大学附属高等学校校歌

二 荒の高嶺を 運かに仰ぎ
 学びの道筋を まさきくあれど
 かたみに誓いて いそしみ励む
 教元の庭こそ げに尊けれ
 あわれ尊 この学びや

庭面に茂れる 姫松小松
 変らぬ操は 千代万代と
 かたみに祝いて いそしみ励む
 学びの庭こそ げに芽出度けれ
 あわれ芽出度 この学びや



〔巻頭言〕

父兄との対話を求めて

校長 須賀 淳

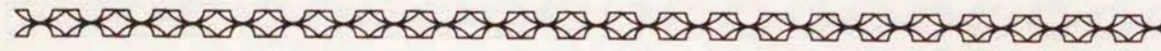


3年生の政治経済授業中の校長

は、生徒の通学範囲がきわめて広く、栃木県内はもちろん、茨城県・福島県などからも通学してきているので、父兄会などで父兄全員にいつせいに学校に集まってもらうことは無

学校も夏休みに入ると、先生はほっと一息というところであるが、先生も自分自身の研修会や生徒の補講、クラブ活動などの指導で結構忙しい。しかしながら夏休みの間はある程度自由な時間がもてるので、一般の会社の方などからはうらやましがられることも事実であろう。

ところで、私の学校では、この夏休み中に先生にとつてはたいへんなハードスケジュールである一つの行事が行なわれる。というの



若人の力を結集、華やかな体育祭開幕…宇短大グラウンドにて



美の象徴……バトントワリング



りゅうりょうたる
ブラスバンドの演奏



やる・やる！むかで競走



先生方の紅白球入れ合戦
人気満点でした！



せた調理科男子の男性美の典型的躍動！

理である。このため、二十年來この夏休みを利用して、学校の先生全員が打ち揃って生徒の住んでいる各地区を廻り、二、六五〇人の生徒の全父兄に面接をしようということになっているのである。

本校には各市町村単位ごとに、そしてとくに生徒の多い地区では出身中学校単位ごとにPTAの支部がおかれていて、七、八月に各地区で開催されるこのPTAの支部会に学校側から全担任教員が出席して、父兄との個別面接を行なうわけである。他の高校にもこのような地区別のPTA支部があるようであるが、他の高校と少しことなるところは、学校側の出席者が校長と二、三人の幹部の先生だけというのではなくて、その支部に一人でも受持ちの生徒がいる担任教員は、かならずその支部会に出席するということである。

したがって、校長、教頭以下五十余名の全担任教員がバスを仕立てて各地区に出向くわけであるが、なにしろ支部の数が茨城県など県外を含めて五十余にのぼっているため、午前と午後、一日二回公演という仕儀に相成るのである。夏の暑い盛りのこととて、その会場としてお借りする各地の中学校の体育館は蒸し風呂さながらであり、長時間におよぶの会合は、父兄にとってもまた先生にとってもたいへんな難行である。

しかしながら、先生の方は年に何回もない貴重な父兄面接の機会であるから、受持ち生徒の成績表や各種心理テストなどの結果表、家族調べや生徒の個人面接の結果表などこまかい資料を持参して、この際父兄に話しておきたいこと、また生徒の家庭における状況などきいておきたいことなど、山のような話題を一気にこなしてゆかなければならないので、時間のたつのも忘れて熱中してしまうのである。

父兄の方もせっかく担任の先生が地元まで出向いてくれるのであるからという気持もあって、万障くり合わせて出てきてくれるので、どの地区もほとんど一〇〇%の出席率であ

り、本校で開く父兄会の出席率とは比較にならない好成绩である。一方、学校側としても、夏休みには教員の研修会や講習会、各種運動の大会などが開かれるので、夏休みに入る前にこれらの行事日程を十分勘案のうえで、PTA支部会の開催日程を調整しておくので、担任先生の方も一〇〇%の出席率であって、父兄に十分満足を与えることになる。

さて、この父兄と担任先生との個別面接の意義や成果については、あらためてのべるまでもないことであるが、このほかに副次的ではあるが私は一、二の大きな意義を見出している。

一つは、担任教員にとっては、生徒たちが生れ、育ち、そして毎日生活している土地、土地に実際に足を運び、じかにその姿をみることに大きな意義があると思っている。教員はお、むね宇都宮かその近況の人であるから、県内各地、ましてや県外の地はあまりよく知らない。したがって、あるときはバスに長時間ゆられて山間の町などに入ることによって、生徒は毎日こんな遠くから朝早く起きて通ってくるんだなあと生徒の努力がしのばれるし、また、その土地の風物や人々にふれて、生徒一人、一人の個性や特性をはぐくんでくれた風土や人情を身をもって感得することになるのである。

二つには、父兄に関することであるが、私は夏休みの期間を通して全父兄に会うことのできるこの機会を、学校の教育方針などを徹底する好機としてとらえ、個別面接に先立つ全体会において、学校の基本的な考え方などの話をするのであるが、ただこの場合、たんに学校の行事としてのみとらえるのではなくて、僭越ではあるが父兄に対する一つの大きな社会教育の場と考えて、私や教頭、教務主任、生徒指導部長などが、それ／＼専門の立場から、高校生など子をもつ親の心得などの話をすることにしている。(要旨は後記のとおり)

暑さのなかこれ聴く父兄の方はなかなかの努力がいるようであって、担任先生との個別面接をめぐって出席した御父兄には申しわけないことであるが、研修の機会の少ない一般御父兄にとっては有意義であろうと考え、がまんして最後まで聴いていただくことしている。

最近全国的に中学生や高校生の非行問題などが新聞紙上にぎわっているが、私には一般論として「問題の子どもは問題の家庭から生まれる」というのが定説のように思われる。またその逆もありうることは「家貧しくして孝子出づ」とか「国乱れて忠臣あらわる」とかいういにしえのことわざに見られるとおりである。

いつの時代でもなんにつけそれなりの問題はあつたわけで、それをプラスにするか、マイナスにもつてゆくかは、本人の考え方、基本的姿勢のいかんにかかっているのである。

孟母三遷の故事のように環境論も大切であることはいまでもないが同時にどんな不潔な環境にも染まらない強い意志をもつた子を育て上げること、もう一歩進めて考えればそのような環境を浄化して清潔でさわやかな新しい環境を創り出そうとする意欲と行動力をもつた子に育てあげることこそ、現在心ある人々がひそかに憂えている親と子の三無主義を解消するもつとも近道ではないだろうか。

そのためには親は子どもから信頼される親でなければならぬし、また学校において先生と生徒の人間関係をいっそう深めてゆかなければならない。すべてのよき人間関係は信頼のうえにうちたてられるものである。

昭和五十年度 お話しておきたい七か条

1 誰からも愛され、信頼される人になる。

明るく 楽しい 学園づくり
素直な本校生徒

5 高校生にふさわしく。

——生徒に望む——

(1) してもらいたいこと。(校則を守る。)

○ 日課表をつくって、節度ある生活を送る。
○ まず勉強です。

(2) してもらいたくないこと。(校則違反)

○ お手伝いをする。——生徒の夏休みはお母さんの夏休み——
○ 無断アルバイト ○ 無届旅行
○ 無断外泊 ○ 無免許運転
○ 誘われドライブに乗るな

6 進路は早く決めて早く準備する。

7 あなたも、一人は一校を代表する。

生徒の幸福と学校の発展のために御協力を。

2 本校教育の特色

——創立以来80年 一貫した教育方針——

- 個性・能力・特性を伸ばす。(5つの科をもつ総合高校)
- 個別指導の徹底(キメこまかい親切な指導)
- 礼法を正す。(しつけのきびしい学校)
- 己れに厳しく、他人には寛大に
(相手の身になって考え、行動する)

3 家庭での話し合いを活発に

——御父兄の皆さまにお願い——

- 自分の子に限って……と安心はできない。
- 無関心、放任、甘やかしは困ります。

4 「夏休みの心得」などの印刷物を読んでくれましたか。

夏休みの行事予定表

○ 夏休み中の生活指針
○ 年間読書のすすめ(読書感想文を書く。)

「御白」のうた

ゆく雲に雲の声なしゆく水に水のこえなし秋きたるらし
ある時はなすべきことを為しはして土曜日のことのどけきに居り
ああ臙月ふぢさく時に母うせきあやめさく日に君をえてけり
ことさらにつくりごととしてわれとわが心かなしめうれしむ日あり
いつはりの涙を追うていつはりの涙ぞはしる君が頬の上
初恋のうすき羽衣まだぬがぬ尊き少女ともおもふかな
草も木も生きむとしてはつかれる真夏の光みなぎれる野に
雨はれてくぬぎ林の樹々の芽の青みしうへに春はけふれり
わすらるるともなく友にわすられて死ぬとしもなく我の死ぬらむ
ふるさとへのけやきよならよ冬枯の木立がかこむ家のこひしき
病みぬればわが下野もはるかなり相模の雨になきぬるかな
骨となりわが帰るべき下野の空さえみえず相模はかなし

一年 高島 朋子
ふり返る雑木林にあかあかと夕焼け映ゆる友と行く道
一年 吉 永 惠津子
午後の空どんより重い日のかげりそんなある日をいなき取りする
一年 阿久津 晴美
あぜみちに芒を取りし妹の歌声ひびく十三夜かな
夏の日の休暇も待たず卒然とせみしぐれの中君は逝きにし
一年 遠 島 考子
夕焼けに私の顔がうつつてる丸く小さく赤く染まつて
一年 鈴 木 純子
夕々に梅雨晴れたれば千瓢の干場づくりの杭打ちの音
一年 藤 井 隆 江
快く父が買いくれし赤い靴惜しとおろせし霜の上かな



集 特
学園ニュースピック

個人賞と学校賞
を獲得

全国デザインコンクール一位

全国高等学校長協会家庭部会主催の第二回
ブラウス、ゆかた柄デザインコンクール応募
作品は全国より約五百点に達したが、本校生
徒作品は優秀作品として評価され、左のお
り入賞、それぞれの賞品を授与された。

- ◇個人賞
一位 三の七 松本道子
佳作 三の六 菊地倫子
白井初江
- ◇学校賞
二位

読書の喜びあらたに

校内読書感想文入賞の人々

昭和五〇年度校内読書感想文コンクールの
応募者は、全校生徒二六〇〇余名、その中か
ら、内容・表現・分量等について審査の結果
次のとおり入賞者を決定した。なお、審査は
学年別に行ない、各学年上位三位までを入賞
として、賞状と副賞(図書券)および賞品を贈
り、それ以下の若干名を佳作とし、賞品を贈
って表彰した。

- ▽三年
一位「舞姫」 12組 小川 順子
二位「ひめゆりの塔」 13組 安西 千恵子

- 三位「沈黙」 16組 小勝はるみ
▽二年
一位「沈黙」 15組 神山美咲子
二位「老人と海」 12組 泉水 紀子
三位「ころ」 16組 新井 章子
▽一年
一位「女の一生」 16組 岩井 秀子
二位「老人と海」 13組 福本 恵子
三位「吾輩は猫である」 6組 増瀬美緒
- ▽佳作入賞者
〔三年〕女の一生 湯本敏子。されどわれらが日
々・戸井田洋子。東京大空襲・小林由美。
変身・小島静江。あすなる物語・佐藤京子。
陽のあたる坂道・高木京子。狭き門・北本祐
子。私は忘れない・福田あけみ。きけわだつ
みの声・小林紀子。有田川・吉原節夫。永点・
大島里子。おバカさん・塚田千鶴子。れくい
えむ。福島朱実。私の信条・大島ゆう子。愛
と死・日向野よし江。
- 〔二年〕青春論 佐野和子。高校生日記・飯野幸
恵。二十歳の原点・羽石純子。青春は美はし
恩田和江。人生について 滝沢公子。出家とそ
の弟子・村田美代。女の一生・河合美弥子。サー
カスの馬・工藤義広。アン・シャリー・岸美智
子。羅生門・山崎智恵子。生きる・菊田はつ女。

高瀬舟・中里敦子。草の実・大内治美。白夜・吉永夕子。放浪記・青木京子。われなお生きてあり。大森容子。カラマゾフの兄弟・根本文枝。
〔二年〕車輪の下・小口順子。夕日のうた・広瀬光子。奈々子・岡村美智枝。野菊の墓・成瀬みゆき。老人と海・高野ひとみ。最後の二葉・三品一也。羅生門・広瀬典子。伊豆の踊り子。横地敏夫。羅生門・遠山泉。母のない子と子のない母と・永井里江。高瀬舟・山下貴子。アンネの日記・高村邦江。車輪の下・北条志麻。二十四の瞳・時庭佳代子。ひめゆりの塔・石川孝子。いのちの初夜・大竹典子。

体育祭盛大に

華やいだ短大の校庭

十一月二日、短大の校庭で全校生参加のもとに体育祭が行なわれました。緊張した空気のなかで行なわれた開会式は、ファンファーレではじまり、会長あいさつ、理事長あいさつ、生徒代表宣誓、そして若い力を合奏し、ファンファーレで閉じました。

クラス一九となり熱のこもった応援合戦が繰り広げられた紅白学級対抗リレーや借物競

争、障害物競争、百足競争、また、ゆかた姿での日光和楽踊りや佐渡おけき、男子全員による騎馬戦、組立体操、エッサッサ、職員、来賓、同窓生による玉入れ、スプリンタース、そして、全生徒による学園音頭を最後に、全演技が終了されました。
結果は、赤組百十一点、白組百十九点で白組に賞杯があげられました。
最後に、体育祭を無事成功に終らせることができた裏には、先生方の数多くの御協力や御指導があったことを忘れてはなりません。

校内球技大会

七月九日から四日間に渡って行なわれた、第十二回校内球技大会は、昨年同様、バレーバスケケット、ソフトボール、及び卓球の四種目からなり、熱戦の末、男女別各種目の優勝クラスは次のとおり決定しました。

女子の部

バレー 一位二六 二位二六 三位二六 四位二六 五位二六
バスケケット 一位二七 二位二七 三位二七 四位二七 五位二七
ソフト 一位二五 二位二五 三位二五 四位二五 五位二五
卓球 一位二五 二位二五 三位二五 四位二五 五位二五

男子の部

バレー 一位二九 二位二九 三位二九 四位二九 五位二九
バスケケット 一位二九 二位二九 三位二九 四位二九 五位二九
ソフト 一位二九 二位二九 三位二九 四位二九 五位二九
卓球 一位二九 二位二九 三位二九 四位二九 五位二九

校内弁論大会

十月九日から三日間に渡って、学年別に行なわれた第十回校内弁論大会予選は、一年二十七名、二年二十八名、三年二十五名の各クラス代表者によって熱のこもった弁論が繰り上げられました。
その結果、各学年三名ずつの子選通過者によって、十一月十五日の校内展示発表会で決勝戦が行なわれました。

優勝者は次のとおりです。
一位 三〇六 河野明子
二位 二〇五 佐藤さち子
三位 一〇二 齊藤セキ子
「青春に思う」

校内展示発表会

好評を博した各部

生徒の強い希望により十一月十五日校内展示発表会が実施されました。文化祭に比べると規模も小さく、一般の参観者も少なかったが、一日だけとあって、各科、各クラブとも熱がこもって内容も充実したものでばかりでした。

家政科による洋裁、和裁、手芸の作品展示、調理科による調理実演と即売、音楽科によるクラシック、及びポピュラーの演奏など、各科の特徴が十分に生かされていました。

また文化クラブでは、文芸部・美術部・書道部の作品展示、和文タイプのタイプ実演、理科部のガラス細工、演劇部による「ペルトベート」「麦こがし」の発表、英語部の英語劇「アルプスの少女」そして、ギター部の演奏などが催され、運動クラブでは、バトンの部、バドントワーリングや空手部の演武など、各クラブとも一年の成果を十分に発揮できたようでした。

校内合唱コンクール

十一月十五日に行なわれた校内展示発表会のプログラムの一つである、第十二回校内合唱コンクール決勝大会が、体育館において開催され、予選通過九クラスによって熱演されました。

優秀賞は次のとおりです。

- 一位 二〇三 「冬の呼吸」 三部合唱
- 二位 一〇三 「雪国」 三部合唱
- 三位 三〇三 「小さな木の実」 二部合唱

新年かるた会

和室で和やかなお正月を

恒例の新年かるた会が、今年も一月十七日国語科主催のもとに行なわれた。対象は三年生全クラス。各クラス五名を選手として、合計七十五名が、知と技と競い、うらかな陽ざしを浴びた和室で、なごやかに、お正月ムードを楽しんだ。
予選、本選を勝ち進んだ十二名によって決勝戦がおこなわれ、次の入賞者が決まった。

家政科主催の

運針競技会

昭和五十年度家政科主催の校内運針競技大会の入賞者はつぎのとおり。

- ▽三年
一位・北本祐子 二位・菊地千恵子 齋藤よし子 三位・中田久美子 南木みや子 藤田波子
- ▽二年
一位・小島佐智子 二位・川又節子 町田多美江 三位・阿部千賀子 齊藤道子 左巻光枝
- ▽一年
一位・田部谷京子 二位・坂本直子 田

中美代子 三位・篠崎洋子 山田良枝 藤井隆江(以上一学期実施分)

▽二年

一位・齋藤よし子 二位・中田久美子、田代和子 三位・大塚泰子、伏見トシイ、福田三奈子

▽二年

一位・滝沢公子 二位・福田美代子 三木文子 三位・仲山雅子 左巻光枝 笹島文代

▽一年

一位・藤井隆江 二位・坂本直子 町中美子 三位・中三川和子 秋山宏子 藤沼洋子(以上一学期実施分)

踊れ氷の精

日光で全校生のスケート教室を開く

昭和五十年年度スケート教室は、恒例により、一月十四日(午前八時四十分より午後二時まで)、日光市所野町「日光スケートセンター」において開催された。本年度の参加者は、五二四名、バス四十八台で一班から三班に分かれ、担任の先生方の指導の下、暖かい冬の日差しの下で、心ゆくまで楽しんだ。ことは、欠席も少なく、岡田先生の総指

揮のもとに、生徒たちは整然と行動し、氷の世界をいつまでも、名残り惜しそうに見つめながら、帰途についた。

北関東簿記検定

試験合格者

▽三級の部

一の十四 佐野愛子・鈴木敦子・早乙女和子

福島亨子・本多元美

一の十五 宮沢紀恵

二の十四 青木みどり・安西正子・岩崎敦子

上野明美・大貫洋美・大野洋子

小堀雅子・齋藤和枝・鈴木裕子・五月女栄子

高塩せつ子・高橋朱美・藤本光枝 樺湖美子

二の十五 荒川千恵・上野京子・大島康代・毛塚加代子・小池都子・関根まり子・仁平千枝子・山中孝子

▽二級の部

一の十四 滝美智子・戸塚美雪

三の十四 井上悦子

校内珠算検定合格者

(昭和50年10月18日(日)実施)

二級 一の十五 落合美恵子 宮沢紀恵

三級 三の十四 根本真美・伴瀬夕子

二の十四 安西正子・菊地成子

小堀雅子・高木寛子・田中美知江

野口幸子・松本法子

二の十五 伊佐京子 毛塚加代子

田仲玲子 中村政代

根本幸枝 山中孝子

三の四 栗原律子

二の六 富貴塚順子

一の十四 鈴木敦子

四級 二の十四 大島妙子他12名

五級 一の十四 長井和子他17名

六級 一の十五 小林節子他11名

△珠算実務検定合格者

(昭和50年11月9日(日)実施)

三級 二の十四 菊地成子 鈴木裕子

戸塚美雪

四級 二の十四 岩崎玉枝 大貫洋美

川島孝子 小塚富士子

△日商珠算能力検定試験合格者

(昭和50年10月26日(日)実施)

三級 三の十四 大沼孝子

二の十五 右井三枝子 田仲玲子

上野京子

四級 二の五 三木文子

二の十四 大嶋妙子

一の十四 長井和子

音楽科の学内演奏会

本校音楽科では、例年各学期毎に学内演奏会を催し、発表の場をおとして技能の向上を意図しているが、一月十七日(第四限)にも第四回目の演奏を行なった。当日の出演者および曲目はつぎのとおり。

1 中村安佐(オーボエ)コンチェルトコレルリ

生徒会長に、篠崎紀夫が

副会長、議長団等も決まる

去る十二月十六日午後、昭和五十一年度生徒会役員立候補者の立会い演説ならびに投票が行われた。会長候補には二年生七人、副会長には一年十人が立候補し、応援弁士も含め意欲にあふれ、ユーモアたっぷりの演説が行われた。会長には篠崎紀夫、菊地成子、浅野享子、神山美咲子、田辺一江、坂田町子、津村幸子が立候補し、副会長には宮沢紀恵、阿部登美子、海老原満弓、石島美有喜、大草久美子、

坂本直子、丸山貴子、早乙女和子、田中美代子、後藤久美子が立候補した。即日開票の結果、会長には一〇五五票を獲得した篠崎紀夫(二の九)が、副会長には坂田町子(二の八)三〇〇票、早乙女和子(一の十四)が七〇五票をそれぞれ獲得し、学校長の承認を得て選ばれた。その他の生徒会役員は次の通りである。会計、戸塚美雪(二の十四)後藤久美子(一

五十年生徒

会総会終わる

昭和五十年度生徒総会は、六月十六日、一時半より体育館において、全校生徒参加のもとに行なわれました。四十九年度行事および決算報告、五十年度行事計画および予算案をそれぞれ審議決定のち議事に入りました。議題は「秋の校内展示発表会について」。今年文化祭にかわって体育祭が実施されることになり、クラブの一年間の成果を発表する場がなくなりましたので、そういう場

を作っしてほしい、という意見が多くのクラブからでたため、この提案が取り上げられました。活発に意見がかわされた結果、決まった

主なる点は、できる限り多くのクラブが参加すること、①日時は十一月十五日 ②場所 本館、三号館、体育館、講堂等を使用。

PTAが茨城方面へ研修旅行 大洗、東海村、袋田の滝等も見学

第六回PTA研修旅行は、去る九月二十日、今回は趣きを変えて茨城方面とし、大洗海岸観光ホテル一泊の予定で、次のようなコースを選んだ。

本校発一時、御前山から水戸を経て四時十五分大洗着。一泊研修会開催。翌朝九時半発東海村原子発電所を見学、西山荘十時半着。十一時半発袋田滝へ向かう。十二時半到着、昼食をとり、馬頭町を経て、三時半本校着解散。

当日は好天に恵まれ、



瀑音とどろく袋田の滝の偉観

期休暇に行なわれたPTA支部総会の在り方について、活発な意見の交換が行なわれ、次年度のやり方をいっそう合理化する好資料が得られ有効だった。

終わって月が美しい海岸にさまよい出た一行は三々五々貝拾いなどに興じ、夜の更けるを忘れて秋の夜の風景を楽しんだ。

また原子力センターでは近代科学の粋をあらためた新しいエネルギー開発の実態にふれて感動を新たにし、袋田の滝では反対に自然の雄大な姿と四度の滝の瀑音にこころを洗われ、夜の懇親会のためと併せて有意義な会を終えた。当日の参加者氏名次のとおり。

父兄側 高山源吉、古山康夫、中島至一、釜辺金次郎、渡辺光雄、竹沢栄、永山松雄、室井伝、堀住久雄、岩崎昇、五月女昭、杉山俊雄、武田仁作、藤田伸夫、飯田祐二、渡辺征一、岩下孝宏、浅香満一、丸山常弥、荒木庄吉、福田常松、竹口源一、加藤担の諸氏。
学校側 校長、太田茂雄、三矢静江、金田彰敏の諸先生。せっかくの企画も参加者が少なかつたので、次回には多数の参加が望まれている。

「若鮎」第三号を発刊

三年前に発足した新聞部の機関紙、タブロイド版二頁。校長の新生入生に与えることは、生徒会総会を終えて、新聞部々長の抱負、修学旅行の感想、渡辺清先生の随筆、声欄など特集として十四名の先生、ニューフェイスが写真入りで紹介されており、楽しく読ませる。

映画放送部が活躍

番組制作で全国大会へ

昨年六月に行なわれた、第二十二回NHK杯全国高校放送コンテストにおいて、番組制作部門で、県予選を優秀賞で通過、全国大会に出場した。作品のタイトルは「秋子の青春」。揺れ動く高校生の内面を七分間のラジオ番組にしたものである。セリフ、バックグラウンドミュージックなどに部員一同苦勞した。全国大会で、入賞は出来なかったが、これを一つのステップとして、頑張りたいと思っている。

校内放送コンテスト

アナウンス・朗読の二部門に分かれて行な

母校へ賛助出品

一星が丘中学の卒業生ら

昭和五十年年度星が丘中学校文化祭に当たり恒例により、出身本校生の参考作品出品依頼にもとづき、左の諸君が協力、好評を博した。
▽道行コート・赤羽光江、三森春江3年▽ウール・ウールアンサンブル・佐藤さち子2年▽子供セーター・赤羽光江、三森春江、鈴木順子3年▽文化ししゅう・松本真弓3年▽テープ・園部光余3年▽同永吉加代子、福田祐子2年▽ブラウス・高橋幸子、藤井隆江、高柳典子1年▽ひらめグラタン・安納良夫1年調理科。

楽しく有意義

磐梯キャン

昭和五十年年度の磐梯キャンは、晴天の七月二十日の朝、篠島先生の指揮の下、統導者十四名、生徒二百名は学校をあとにして、一路磐梯岬キャン場へと向かった。バスの中も楽しく、キャン場で生活を

夢見てはしやき回っていた。途中、志田浜、野口記念館に立ち寄り、午後三時目的地に無事到着し、食事の準備にとりかかった。慣れぬ手つきで飯炊きさんをはじめ、夕暮れの六時頃には、それぞれの班で鍋をかきみ先生と共に舌づつみをさうっていた。

二日目は登山。はつきりしない天候ではあったが、先生方の「登山決行」という判断のもと、磐梯山頂へと足どりも軽く登りはじめた。登りは霧がかかり周囲の景色を楽しむことはできず、それぞれに歌など口ずさみ、まず第一の目的地弘法清水へと足を急いだ。そこから自由登山ということでは有るが、上は風も強く、霧もかかっており、気分最高というわけにはいかなかったが、征服の満足感で、それぞれおむすびを口いっぱいにはうばり、憩いのひとときを送ったあと、落伍者もなく全員無事に下山した。三日目は五色沼方面散策。前日の疲れもこれ、全員五色沼に向かった。コバルトの水を眺めながら、それぞれボートに乗ったり、写真を撮ったりして、楽しい時間を過ごした。キャンプのファイナルであるキャンプファイヤーも雨があがった夜八時頃から「愛情」「団結」「組織」「協力」の四つの言葉により中

央の開けたに点火され、大きく燃え上がる炎のもとで、最後の夜の名残りをおしんでいた。四日目は、有意義であったキャンプ生活を終え、生活を共にした岬キャンプ場にも別れを告げ、皆の待つ宇都宮へと向った。

税に関する作文入賞

(体育科)

宇都宮税務署主催、昭和五〇年度、税に関する作文」に応募して、佳作に入賞し、次のとおり、関東信越国税局長表彰を受けた。
税金について 三十二海老沼和子
福祉国家のための税金 二十六海賀恵子
表彰式は十一月十七日(月)十一時三〇分から一二時まで、本校応接室にて行われた。校長先生その他関係者立会のもとに、宇都宮税務署長から表彰状と賞品をいただいた。

下野書道展で銀賞を

本年度下野教育書道展は例年どおり開催され入賞者の授賞式が去る九月二十七日栃木会館において盛大に挙行された。本校応募者の成績は次のとおり。

◇下野書道展

銀賞 二の四 木下寿満子

銅賞 三の十三大島 待子 外入選九名

◇宇河地区芸術祭

銀賞 二の四 木下満寿子

銅賞 一の十一 塚田 英子

交通遣児にと

6千円を寄託

宇都宮短大附属高校文芸部は下野袋学交通遣児基金にと十一月二十二日六千三百円を寄託した。これは校内文化祭で、同部顧問の手塚武教諭が執筆した色紙や短冊などを展示即売しその純益金を寄託したものである。

「下野新聞より転載」

短大第六回大学祭華やかに開幕

宇都宮短大第六回大学祭はことしも、礼楽はしばらくも身を去るべからず、の基本精神にもとづいて、十月二十四、二十五、二十六日の三日間にわたり盛大に開催された。こと

しの統一テーマは「飛躍」。二十四日は四時半からの前夜祭で開幕。二十五日は、ピアノ独奏(高橋悦子)にはじまりオペレッタ「椿姫」(二年音楽科)をもって成功裡に閉幕。二十六日は午前、午後の二部に分けて女性三部合唱(合唱クラブ)、混声四部合唱(自治医大生、宇短大生)、宇都宮室内合奏団の「調和の靈感」をはじめ、各種目の独奏、独唱、合奏などを華やかにくり展げ、旺んな後夜祭をもって閉幕した。

なお自治会新聞委員会からは「おか」第五号が発行(タブロイド版四頁)された。副学長須賀淳先生の「真の人間教育をめざして」渡辺教授の「南米の秘境アマゾンを行く」、厚地自治会長の「今日・この頃」、南波編集委員長の「オーケストラ、ワイワイ行状記」をはじめ特集「ひと夏の大体験」新入生アンケート等、読みごたえのある企画とコラム欄が光っている。

これはおいしい! うちの子もやるな

調理科父兄の試食会

十月七日、調理科一年生の腕によりをかけて

つくり上げたお料理を、父兄の皆さん方に試食していただくという趣向の会が催された。和食は横山先生、洋食は新井先生のご指導。ことしは下野、栃木、読売、三新聞社の記者さんたちもゲストとして出席、おほめのことは紙上を飾ってくださった。
お父さん、お母さん達は待ち切れずに定刻一時間も前から詰めかけ、コック姿の吾子に見惚れながら、「うちの子もなかなかやりのわい」目を細め舌鼓をうっていた。

今年度ソフト部の成果

東日本大会出場

三月二十七日～三月三十一日

栃木県足利市内球場

関東大会予選 三位

五月十日 宇女商と対戦 六一〇 負

真女と対戦 二一五 負

十一月 那須高と対戦 四一九 勝

インターハイ予選 三位

六月十四日 宇女商と対戦 一一六 負

矢板中央と対戦 五一一 勝

十五日 真女と対戦 二一一 負

国体予選 二位

八月九日 真女と対戦 三二二 勝
宇女商と対戦 九〇 負
十日 矢板中央と対戦 四一五 勝
十一月八日 氏家高と対戦 二九一〇 勝
新人戦 二位
鳥女と対戦 三二〇 勝
九日 佐女と対戦 二二二 勝
宇女商と対戦 四一三 負

テニス部はこう がんばっている

栃木県の軟式庭球のレベルはといっても、高校生においては関東で三位、関東は全国大会へ行っても数多く優勝している。昨年もある。国民体育大会に宇短大はあと一歩という所である。僕が宇短大に勤め始めたときには、県で優勝、関東大会へも栃木県代表として出場している。昨年も出場しているが、関東のレベルが高く、入賞まではあと一歩である。これは今まで「ゼロ」のクラブをここまでつみ上げ、苦勞してこられた先生や卒業生のおかげである。私たちはこのことを頭に入れ

毎日毎日ハードトレーニングをつんでいる、今年こそは全国に名を上げるのだ！」と。

しかし三年たてば卒業という、さびしいような嬉しいようなわかれが一番つらい。でも卒業生が県内、県外を問わずテニスを忘れることなく続けていく。また現在の宇短大の後輩の為に、合宿の時など応援に来てくれるのは何といっても有難い。

やっとプレーができてきた。「よし今度はいただき」と思っている卒業となる。

これからの部員は、もつとと高校選手権で、「優勝」の味を味わって、全国に名を上げて卒業してもらいたい。

同じことをやるのだつたら、だれにも負けるな、(テニス顧問・岸本哲明)

各種大会に進んで参加しよう

東日本珠算大会に出席して

三年 町島 静子

私は、七月十三日に第八回東日本高等学校珠算競技大会に出場してきました。私達の学校は二名だけで行きました。

始められたもの。毎週土曜日の午後実施し、一、二、三年生を含め、十名ぐらゐを二班とし女子十班、男子二班を作り、二カ月から三カ月の割合で、一班ごとに、季節や学校の行事などにあわせて、曜日、時間を変更し約一時間の清掃を行なってきた。清掃を始める前に、駅長さんに「清掃をやりますので、よろしくお願いします」と言うと、「いつもすみませんね。よろしくお願いしますよ」と言ってくれ、また、清掃中など「ご苦労さん」と、駅員さんや売店のおばさんが言葉をかけてくれる。また、駅を利用する人も「どの学校ですか」とか「ご苦労さまです」と言葉をかけてくれ、私達が清掃をやっているのを見て、下にちらかさないで、ごみ箱に捨てて行く人も多くなってきたのは、とてもうれしなことだ。年末には、全員で大清掃をやり、駅員のみなさんにも喜ばれた。この大清掃の時には、来た人全員に、コップしきをいただいたり、夏休みの清掃の時などは、駅員さんが、あつくて大変だからと言って、飲み物などを持って来てくれたこともあった。

私たちは、お互いに協力して、あくまでも「奉仕の精神」で、実施している。音楽科や運動部員など参加の出来ない人たちについて

内容は、乗算、除算、見取算、見取暗算等、応用計算、それに種目別競技があります。

私は、今回で二回目ですが、いつも思うことはみんなすばらしいなあという事です。それに、やはり商業専門学校の人が強いなあと思う事です。私達の学校は、商業専門教科と一般教科がだいたい同じです。

私が一番感じたことは、よそは計算実務の時間が多いのではあるまいかということです。私達は週二回しかありません。それと、もう一つ、私達の学校の人は、もつと自信をもつ



活発な奉仕活動 主体は学友会各支部

八年間駅の清掃と慰問
鹿沼支部

学友会は、鹿沼西中、東中の出身者で、百二十三名のうち、女子が百〇八名、男子が十五名で構成されている。顧問の先生は、三矢

は、特別考慮をほらい、都合の悪い人たちも個人個人で交換し合って、毎週活動は続いています。また、駅清掃ばかりでなく、慰問なども、全員の協力を得て、毎年行なっています。これからも、このような活動を、末長く続けて行ってほしいと思います。

鹿沼学友会では、奉仕活動をはじめから今年で九年目。先輩の業績をうけついで次のような活動を行なっています。

主な活動状況

一、国鉄鹿沼駅待合室ホーム・駅前広場の清掃実施。

毎週土曜日の、下校時間を利用して、班編成に基づき、駅清掃を実施し、駅の人たちや、乗客の方に喜ばれています。

二、老人ホーム千寿荘の慰問は年間行事の一つとして実施しています。

主な慰問品は、手拭・タオル・石けん・ぞうきん・クレンジーなどです。

三、東中・西中の合同演奏会に花束を贈呈し、学友会有志らの花束を、両母校に贈呈し大変喜ばれました。

四、年末に駅の大清掃を実施
(支部長・中本静子)

ためにも、いろいろな大会に、どんどん出場してほしいと言うことです。

先生にいわれても自信がないから行けませんなどという人が、余りにも多過ぎます。

私も、最初は自信がなく行きたくありませんでしたが、今思うと行ってよかったです。すこく勉強になりました。

これからは、下級生が頑張る、個人ばかりではなく団体でも、出場してよい成績を残してくれることを期待したいと思います。

先生と信夫先生です。

この奉仕活動は、八年前に「登・下校中に見る国鉄鹿沼駅がよくなっている、私達が清掃することによって、駅員さんの手はぶける」とともに、利用する人も楽しく利用できるのではないかと、という生徒側からの自発的な申し出により、数人の先輩によって、

忘れぬお婆さんの暖かい手

日光支部

日光支部では、毎年夏休みと冬休みを利用して、駅清掃と老人ホーム慰問を行なっています。

◇夏休みの奉仕活動は、鶴田駅清掃で三回の登校日の掃り行ないました。汗を流しながら行なった清掃もあとをたため駅利用者たちからよこされてしまいました。日常つごみをなげすてしまふ私達でしたが、この清掃をしてみても、いろいろ反省させられました。

◇冬休みの奉仕活動は、老人ホーム慰問と決まり三品先生の統導で六人の代表が、訪問しました。そして一人五十円ずつ集めたお金と慰問品を手にし今市にある晃明荘へ行きました。

静かな所にあり、設備なども整いすこしやすそうでした。大広間に案内され、外ではお年寄達が自分の手でおもちつきをしていました。汗をふきながら一生懸命なのは、